

大学院修了にあたり

大学院修了にあたり

硬組織形態学分野 真喜志 佐奈子

この度大学院を修了いたしましたので、これから進学を考えている方の参考になればいいなという思いで、進学前後の体験談や私の考えを書かせて頂きます。

私が基礎研究の道に進んだきっかけは、3年次の解剖実習でした。自分のレベルアップを大いに実感できたので、研究もこの延長にあるものかしらと思い、その世界に足を踏み入れてみたのが4年生の夏でした。

定期試験前日に真夜中のラボで、切片の染色をしていた日もありました。不安はありましたが、頭もカラダも存分に動かしていると開けたことのない扉が開いていく感覚があり、新たな自分への挑戦として楽しみながら過ごしていました。もちろん大変でしたが、今となっては良い思い出になっています。

講義に研究に部活や図書館利用など、大学ならではの“お得感”（同じ授業料で勉強し放題。常にそう考えて動いていた）をエンジョイしていたある日、Bostonで開催される学術大会に出場する事が決まりました。臨床実習が始まって私は5年生でした。頑張ればこんなご褒美が待っているのか、ありがとう大島先生（私の教授）！と心も体も踊りました。

Bostonでは、発表後に世界中から集まった研究者とお話してご飯を食べて、みんなでダンス（あまり馴染めなかった）をしました。新しい発見や学びが沢山あり、新潟に帰ってきてからも

1ヶ月くらいウキウキが収まらなかった事を覚えています。

その後、国家試験を無事にクリアして臨床研修を終えた後に、再びラボの扉をたたきました。大学院1年生の始まりです。母が歯科の開業医なので、私が大学に残ると伝えたとき（事後報告）両親は寂しがっていましたが、最終的には応援させました。

本題である大学院生活ですが、私は週1回歯科医師として臨床の機会を得ながら研究を行っていました。夏は実習のお手伝いとして解剖実習に明け暮れ、その他のシーズンは学会発表の準備や論文作成を繰り返すうちにあっという間に4年間で過ぎていき、今に至ります。院3年時にはLondonの国際学会にて口頭発表を行い、ダンスセッションも楽しめてかなりプラスの刺激をもらいました。海外の舞台に立てた事は今でも私の生きる原動力になっています。いつかまたあの場所に…と考えるとやる気が湧いて準備が楽しく感じます。

最後に…

大学生活において目標を持つ事は大切です。しかし、国家試験を通る他に明確な目標を見つけられる学生（研修医あるいは大学院生）の方は多くないと思います。なにせ選択肢が少ないので、まずはそれを増やす、兎に角挑戦してみる事が大切だと思います。“Never a failure, always a lesson”精神で、大学生活をエンジョイしながら自分の好き嫌い・得意不得意を見つけられると、目標が立てやすくなると思います。私の大学生活を支えて下さった先生・学務・総務・友人の皆様と愉快なラボメンバーに、改めまして心より感謝申し上げます。

大学院修了にあたり

新潟大学医歯学総合病院薬剤部 顎顔面口腔外科学分野
吉田 謙 介

はじめまして。新潟大学医歯学総合病院薬剤部に所属しております、吉田謙介と申します。現在、東3階病棟専任薬剤師として歯科医師の先生方とご一緒に仕事をさせて頂きながら、社会人大学院生として顎顔面口腔外科学分野で臨床研究を学ばせて頂いております。

この度、「大学院修了にあたり」とのテーマで寄稿依頼をいただきましたので、簡単ではありますが大学院生活を振り返りたいと思います。私は東京薬科大学薬学部を卒業後、新潟大学医歯学総合病院薬剤部に入局いたしました。

私の研究テーマは「歯科領域における薬物療法への薬剤師の介入効果に関する研究」についてでした。具体的には、歯科領域における抗菌薬の適正使用に関する報告でした。歯科外来における普通抜歯および下顎埋伏智歯のSSI発生状況に着目し、薬剤師の立場から経口抗菌薬の使用状況を後ろ向きに調査しました。さらに、その調査結果を踏まえ、下顎埋伏智歯抜歯患者を対象にガイドラインの範疇で抗菌薬の投与期間とSSI発生率に着目し、患者背景を揃えた詳細な前向き研究を行わせていただきました。詳細は論文を見ていただければと思いますが、本研究において、歯科領域における薬剤師の介入は、入院病棟のみならず、歯科外来に対する普通抜歯および下顎埋伏智歯抜歯のSSI発生率を増加させず、抗菌薬使用量の減少、ガイドラインに沿った抗菌薬の選択、投与期間の短縮、投与タイミングの決定に寄与することを明らかにすることができました。

社会人大学院生の期間に論文11報（主論文6

報）、学術奨励賞3度受賞、科研費若手研究採択など、大学院へ進学する前には想像もつかなかった成果を上げることができました。このような成果を上げることができたのも、指導教官や協力していただいた口腔外科医の先生など周りの人に恵まれたおかげです。社会人大学院生としての一番の収穫は、「人間として成長することができたこと」だと思います。人脈、やり切る力、計画性など本当に沢山のことを学ばせて頂きました。

集大成を国際学会に発表する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で機会がなくなってしまったことはとても残念でした。しかし、ある意味では叶えたい目標の一つとして残されており、いつか必ず実現したいと思います。そして、今後も学位取得に満足せず、新潟大学で博士（歯学）を取得した初めての薬剤師として、歯学・薬学の視点を持って世の中に貢献していければと思います。

最後になりましたが、本研究遂行にあたりご指導を頂きました顎顔面口腔外科学分野の高木律男名誉教授、富原圭教授、児玉泰光先生、ならびにご協力頂きました全ての先生方に心より感謝申し上げます。



同期の社会人大学院生 アンドレア先生と
コロナ禍での学位授与

令和3年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	真喜志 佐奈子 （口腔生命科学）	Osteopontin on the dental implant surface promotes direct osteogenesis in osseointegration （デンタルインプラント表面のオステオポンチンはオッセオインテグレーションにおける直接性骨形成を促進する）
博士（歯学）	伊 藤 圭 一 （口腔生命科学）	万能試験機を用いた歯科用石こうの硬化膨張圧の検討
博士（歯学）	SALAZAR Andrea Rei Estacio （口腔生命科学）	Occlusal evaluation using Modified Huddart and Bodenham scoring system following two-stage palatoplasty with Hotz plate: A comparison among three different surgical protocol （Hotz床併用二段階口蓋形成術におけるModified Huddart and Bodenhamスコアリングシステムを使用した咬合評価：3つの異なる外科的プロトコル間の比較検討）
博士（歯学）	吉 田 謙 介 （口腔生命科学）	Research on the effects of pharmacist intervention for the drug therapy in dentistry （歯科領域における薬物療法への薬剤師の介入効果に関する研究） 第1報 Clinico-statistical Survey of Oral Antimicrobial Prophylaxis and Surgical Site Infection Regarding Ordinary Tooth Extraction and Mandibular Wisdom Tooth Extraction in the Dental Outpatient Clinic （歯科外来の普通抜歯および下顎埋伏智歯抜歯に関する予防的経口抗菌薬と手術部位感染の臨床統計調査） 第2報 Comparison between the Prophylactic Effects of Amoxicillin 24 and 48 hours pre-operatively on Surgical Site Infections in Japanese Patients with Impacted Mandibular Third Molars: A Prospective Cohort Study （下顎埋伏智歯抜歯に関する日本人の手術部位感染に対する術前24時間と48時間のアモキシシリンの予防効果の比較：前向きコホート）

